

上武大学広報

発行

学校法人 学文館
法人本部 企画広報部

上武大学

◇大学本部◇
所在地 〒372-8588
伊勢崎市戸谷塚町634-1
☎0270-32-1010(代)

◇ビジネス情報学部◇
(スポーツ健康マネジメント学科)
☎0270-32-1011(代)

◇大学院経営管理研究科◇
◇ビジネス情報学部◇
(国際ビジネス学科)
◇看護学部◇
所在地 〒370-1393
群馬県高崎市新町270-1
☎0274-42-2828(代)

題字
絵手紙創始者
小池 邦夫

INDEX

- 藤井海斗さんが「世界ジュニアミックスダブルスカーリング選手権2026」で優勝……1
- ダブルスカーリング選手権2026」で優勝……2
- 上武大学の絵手紙への取り組み……2
- 看護学部地域健康講座にボランティアとして参加……3
- 看護学部地域健康講座にボランティアとして参加……3
- 硬式野球部 関甲新学生野球リーグ43回目の優勝……4

藤井海斗さんが「世界ジュニアミックスダブルスカーリング選手権2026」で優勝



ビジネス情報学部1年生の藤井海斗さんが、カナダ・エドモントンで開催された「世界ジュニアミックスダブルスカーリング選手権2026」に日本代表として出場し、見事優勝を果たした。予選リーグA組を6勝1敗の首位で突破すると、決勝では優勝候補の開催国カナダ代表と対戦。6エンド終了時点で3-15とリードを許したが、7エンドで1点を返すと、不利な先攻だった最終8エンドで2点を奪い接戦を制し、世界一の栄冠を獲得。日本カーリング界の将来を担う選手

として、その実力を世界に示した。



大会を振り返り藤井さんは、「予選リーグから接戦が続いたが、粘り強く戦い抜けたことが優勝につながった。世界のジュニアトップ選手との対戦を通して、多くの学びと課題を得ることができた。さらに成長できるよう、日々のトレーニングに励みたい」と語る。

また、6月に開催された日本カーリング選手権には「SC軽井沢クラブジュニア」のスキップとして出場し、3位入賞を果たした。「自分たちが日本の中でどれだけ通用するのかを知ることができた一方、決勝進出という目標には届かず悔しさも残った」と振り返り、「一つずつステップを踏んでいくことが、オリンピック出場への近道」と次なる目標を見据える。

世界ジュニアの頂点に立った藤井さんは、日本カーリング界を担う次世代の有望選手の一人として、2030年に開催されるフランス・アルプス冬季オリンピックでの日本代表入りも期待される。今後さらなる飛躍に注目が集まる。

教員の研究について

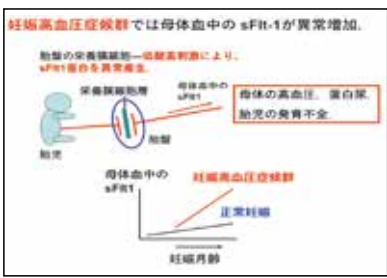
澁谷正史学長の研究について

「産科の重大疾患の一つについて、その治療法開発を目指す東京大学との共同研究がAMED研究費に採択される」妊婦の約5%で発症する妊娠高血圧症候群（以前の名称では妊娠中毒症）は、産科の疾患の中でも患者数も多く、母体、胎児の両方に重大な悪影響を及ぼすことから、世

東京大病院と上武大学・医学部生理学研究科は、過去5年ほどこの疾患の克服を目標に共同研究を続けてきた。この共同研究は、今回、公的研究費の一つである日本医療研究開発機構（略称・AMED）の令和8年度研究事業に採択され、3年間、手厚い研究支援を受けることが決定した。研究代表者は東大病院・入山高



福島県浅川町城山登山道に建立されている澁谷正史学長の碑文



竹内成生スポーツ健康マネジメント学科長の研究について

「抑うつと視覚情報処理の関係から高次行動を探る」ネガティブな心理状態を視覚的な「暗さ」に喩えることがある。これは

澁谷正史学長の研究について
E.D.が募集した項目「周産期・小児期の疾患等の予防、及び治療に関する研究開発」で、全国から13件の応募があったが、我々の申請を含めて2件のみが採択となった。東大と上武大の共同研究では、本疾患の動物モデルに対して良好な治療薬候補を開発できている、近い将来の臨床試験を目指している。

公務員一次試験に207名が合格！

公務員試験は7月までの前半試験と9月からの後半試験に分けて実施されるが、今年度前半試験の合格発表が続々行われている。現在までのところ、一次試験の合格者数は207名（8月3日現在）となり、各都道府県警の警察官試験に116名、各市の消防士試験に37名、市役所や国家公務員などの事務系試験に15名ほかが合格し、過去最多の合格者数を更新している。

一次試験に合格した学生たちはいま、最終合格をめざして二次試験に臨んでおり、キャンパスでは連日、面接練習などの

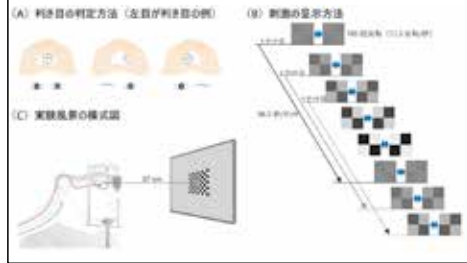


図1 実験の方法：左目が利き目となる場合の利き目の判定方法（A）、刺激の呈示方法（B）、実験時に参加者に取り付けた電極の配置と刺激呈示画面との距離を示した風景の模式図（C）。

1、非利き目の網膜応答が抑うつ状態を反映する可能性を示し、日本生理心理学会優秀論文賞（第28号）を受賞した。2023年度からは、左右の目に異なる画像を呈示すると見える像が入れ替わる「両眼視野闘争」中の脳波を測定し、左右の視覚入力の違いが注意・判断・行動調整に及ぼす仕組みを調べる研究課題が科学研究費助成事業基盤Cに採択され、さらなる研究を進めている。

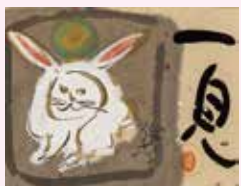
2026年度 公務員試験合格状況	
一次試験合格者 207名	
警察官	116名
消防士	37名
自衛隊（幹部候補生ほか）	37名
海上保安官、刑務官	各1名
労働基準監督官	2名
国税専門官	1名
国家一般職（行政）	1名
市役所	11名

新刊のお知らせ

書名：渡辺俊明と小池邦夫の絵手紙交流 in JOBU
編著者：上武大学学園長／同大学手がき文化研究所代表 澁谷朋子
体裁：B5判 コデックス装幀 オールカラー
定価：未定 発売：2026年10月
お申込みはお名前（ふりがな）、ご住所、電話番号と必要冊数を明記し、ハガキ、FAX、メールにて以下までお送りください。なお、お電話でも受け付けております。
〒370-1393 群馬県高崎市新町 270-1 上武大学企画広報部 宛
TEL:0274-42-1183 FAX:0274-42-5202 e:mail hisho2@jobu.ac.jp

公開講座のご案内「小池邦夫と渡辺俊明の絵手紙交流」

日時：10月11日午前10時～
会場：上武大学高崎キャンパス学生ホール
内容：日本絵手紙協会・登坂和雄会長、日本絵手紙協会公認講師・小池恭子先生、渡辺仁子氏（渡辺俊明氏の奥さま）、上武大学澁谷朋子学園長による講座と絵手紙実技
詳細・お申込みは大学のホームページまたは企画広報部まで
https://www.jobu.ac.jp



渡辺俊明氏の作品

令和8年度入学式

4月3日、令和8年度入学式が高崎キャンパス三俣記念館大ホールにて執り行われた。告辞にて澁谷正史学長は「建学の精神『雑草精神』(あらくさだましい)」の下、様々なことに挑戦し、自らで考え、自らで行動し、充実した大学生活を送ってください」と話し、新入生をあたたかく迎え入れた。



看護学部

病院説明会を開催

群馬県内26の施設が参加

4月9日、高崎キャンパス看護学部全学生を対象とした「病院説明会」が開催された。本学の実習先である病院や卒業生が就職している群馬県内26の施設が参加した。1・2年生は病院からの全体説明を各教室で受け、3・4年生が各病棟のブースで病院の概要や仕事の内容について説明を受けた。各病棟ブースでは病院の担当者や面談できる機会を活かし、参加した

学生は積極的な質問をするなど、意欲的に参加していた。学生にとっては今後の国家試験合格に向けた、勉強のモチベーションを上げるだけでなく、将来



高崎市内私立大学・短期大学連携事例発表会で

本学学生が発表を行う

2月19日、群馬パース大学にて高崎市内の教育機関が集まり、「市内私立大学・短期大学連携事例発表会」が開催された。本学から学連携・地域貢献活動による地域振興を目指して「



発表を行う柔道整復師コース大竹さんはスポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース2年の大竹さんと金成さんが、健康寿命

延伸に向けた筋力向上トレーニング講座についての活動報告を行い、スポーツ健康マネジメント学科3年の菊池さんが陸上競技部の伊勢崎市小学校陸上教室記録会での活動についての発表を行った。

学生たちは発表に向けて事前練習を何度も重ね、本番ではその成果を発揮し、堂々とした素晴らしい発表を行った。また、他大学の学生による事例発表も行われ、それぞれの特色のある取り組みに触れることで、多くの学びや新たな気づきを得る貴重な機会となった。

ハンドボール部 高崎ジュニアチームとの 交流会を開催

6月6日高崎キャンパス体育館にて、本学ハンドボール部と地元小学生チーム「高崎ジュニア」による交流会を開催した。



とともに、大学生との交流を通じて競技への関心を深めてもらうことを目的として実施された。当日は、本学ハンドボール部の学生が小学生の練習をサポートし、技術指導

などを通じて交流を深めた。学生たちは、普段の監督やコーチとは異なる身近な存在として子どもたちに寄り添い、一緒に汗を流し、ハンドボールの魅力を共有した。

参加した学生からは、「指導する立場は初めてでしたが、小学生の皆さんと楽しく交流し、自分がこれまで培ってきた技術

や経験を伝えることができ、貴重な経験となった」との声が聞かれた。また、交流会に参加した高崎ジュニアでは、本学を2021年に卒業した奥澤氏がコーチを務めており、本学卒業生が地域におけるスポーツ振興や競技普及に携わり、次世代を担う子どもたちの育成に貢献していることも、本交流会の大きな意義の一つとなった。



学内研究会開催

学内の教育と研究の質向上を目的とした「学内研究会」が、2月24日に高崎キャンパスで開催された。本研究会は2部構成となっており、第一部

の学生報告では、本学院生が修士論文を、学部生が卒業研究、アメリカでの海外研修、地域連携事例の発表、モンゴル人留学生による母国紹介スピーチイベントが行われた。第二部



では教員による研究発表が行われ、澁谷正史学長が「血管新生因子(VEGF)受容体のシグナルの特徴と癌・妊娠高血圧症候群等との関わり」について発表。続いてビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科の中川剣人准教授が、「アスリートの競技特異的な神経適応」に関する研究発表を行った。会場の観覧者や参加者から積極的な質問や感想、アドバイスが飛び交い、教育および研究活動の活性化に寄与する研究会となった。



自国の紹介を行う留学生

上武大学の絵手紙への取り組み

令和8年4月、昨年度休講となっていた「美術(絵手紙)」の講義が再開され、伊勢崎キャンパスでは受講生60名を対象に澁谷学園長が担当した。絵手紙を通して表現力を養うだけでなく、毎回200字の文章を書く課題に取り組むことで文章力や教養も身に付けられることが特色である。受講生は初心者が多いものの、講義を

重ねる中で絵と文章の両面で大きく成長を遂げた。また、本学の絵手紙の取り組みは授業にとどまらず、6月には硬式野球部員や学外の参加者を対象とした特別講座も開催。「一息」をテーマに、それぞれの思いを込めた絵手紙を制作した。これらの作品は10月刊行予定の新刊にも掲載される予定である。



令和7年度学位記授与式が執り行われました



優秀学生表彰を受けた4名 左から西原さん、井出さん、平井さん、パトリックさん

3月13日、令和7年度上武大学学位記授与式が、高崎キャンパス三保記念館大ホールにて行われた。式に際し澁谷正史学長は「新型コロナウイルス感染症で、授業や課外活動に制限がかけら

れる厳しい環境の中、本学の建学の理念である『雑草精神（あらくさだましい）』を学び、学業の面のみならず、スポーツ・文化・ボランティア活動等で大いに活躍し素晴らしい成績を残しました。大学生活よりもいろいろな面で厳しさを要求される世界に臨み、緊張感とともに不安をもつ学生諸君も多いかもしれませんが、胸を張って社会へ出てください。みなさまの今後のご活躍に期待します。」と巣立ちゆく卒業生にメッセージを贈った。なお在学中に優秀な成績を残した卒業生を表彰する「優秀学生表彰」では、硬式野球部から井出海翔さん、平井宏幸さん、西原太一さん、駅伝部からパトリックカマウキンヤンジュイさんの計4名が受賞した。

1月28日伊勢崎キャンパスにてビジネス情報学部3年生を対象に、就職活動に向けたイベント「学内セミナー」が開かれた。本イベントではまず始めに、外部講師による事前研修が行われ、就活におけるマナーや今後のスケジュール、注意点などのレクチャーを受けた。その後は

を設置したセミナー会場で、参加した166名の学生は真剣な眼差しで希望の企業から仕事内容や採用ステップなど聞き入っていた。



令和7年度

上武大学学内セミナー

看護学部地域健康講座にボランティアとして参加

6月19日、新町公民館で開催された地域健康講座「和やかスマイルアツ

プ教室」に、新町公民館からの依頼を受け本看護学部3・4年生がボランティアとして参加した。

当日は、本学田村講師による「地域の健康マップづくり」をテーマに講座が行われた。参加者は、新町内で散歩や運動に適した場所を地図上に記入し、その情報を共有した。地域の健康資源を再発見するとともに、健康行

動の促進や地域住民同士のつながりの向上を図る内容となった。

学生たちは、資料や材料の配布補助に加え、テーマ導入時の事例共有における傾聴役や、グループワークのファシリテーターとして活動し、講座の円滑な運営に貢献した。参加者との交流を通じて、地域住民の健康づくりやコミュニケーション形成について学ぶ貴重な機会となった。



ホームページ

リニューアルのお知らせ

3月16日、リニューアルを行った本学のホームページを公開した。

今回のリニューアルで、より見やすく、より使いやすいホームページを目指し、デザインや校

正を一新した。受験生や保護者の皆様、在学生、卒業生、地域の皆様など、多くの方々が必要な情報へスムーズにアクセスできるように、情報公開に取り込んでいきたい。



運動部の活躍

ハンドボール部 第78回日本ハンドボール選手権大会群馬県予選会優勝！

7月12日、第78回日本ハンドボール選手権大会群馬県予選会が行われ、本学ハンドボール部が優勝を果たした。

これにより10月24日・25日に群馬県富岡市で実施される関東ブロック大会への出場が決まった。

以下試合結果

準決勝 上武大学 34-25 富岡高校
決勝 上武大学 27-26 富岡ハンドボールクラブ



男子バレーボール部 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権群馬県ラウンド優勝！

7月12日、ALSOKぐんまアリーナにて、令和8年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権群馬県ラウンドの決勝戦が行われ、創部1年目の本学男子バレーボール部が翠巒クラブをセットカウント2-1で下し、初優勝の快挙を果たした。これにより9月19日・20日に茨城県日立市で行われる関東ブロックラウンドに出場が決まった。



夏のオープンキャンパス開催

参加者と学生の触れ合いイベント満載！

上武大学夏のオープンキャンパスが、合計4日間の日程
(7月5日、18日、8月2日、23日)で開催された。

全国様々な県から多くの参加者にお越しいただき、学生スタッフも多数参加して、高崎、伊勢崎

両キャンパスは大きな賑わいを見せた。本学のオープンキャンパスの特徴として、体験コーナーが

多数設置されており、来場いただいた参加者と多くの学生が触れ合うことのできるイベントとなった。特に看護学部では、「妊婦体験」や「シミュレーター体験」「高齢者体験」「救急救命法体験」「三角巾の使用法体験」が各ブースにて行われた。来場した参加者からは「大学生から直接講義や大学生活の話聞くことができたので良かった」「学生による実演を目の前で見ることができて参考になった」「資格取得のためのサポート体制が充実していて安心した」「施設や設備が整っており、勉強しやすいそうだった」などの感想をいただいた。



デモンストレーションを行う救急救命士コース学生



2026年5月18日付 上毛新聞

硬式野球部

関甲新学生野球リーグ 43回目の優勝

5月17日、上武大学野球場にて、関甲新学生野球春季リーグ優勝決定戦が行われ、本学硬式野球部は平成国際大学を9-3で下し、3季連続43回目のリーグ優勝を果たした。

これにより第75回全日本大学野球選手権大会への出場が決まり、硬式野球部としては通算で21回目の出場となる。

また今季のMVP(最高殊勲選手賞)として本学4年生の伊藤颯希選手が選ばれた。



最高殊勲選手賞を受賞した伊藤選手

その他個人タイトルでは、伊藤が最多打点賞(21打点)と最多本塁打者賞(6本)、木口永翔(4年・投手)が最優秀防御率賞(0.85)を獲得した。

活躍する卒業生



進藤選手は現在の目標について、「周囲への感謝の気持ちを」

北海道日本ハムファイターズ
進藤 勇也さん
上武大学在学中、強肩・強打の捕手として活躍し、侍ジャパン大学日本代表にも選出されるなど、全国屈指の実力を発揮した進藤勇也選手。
2023年ドラフト2位で北海道日本ハムファイターズに入団後は着実に成長を重ね、2026年シーズンは一軍で出場機会を増やしている。5月にはプロ初本塁打を記録。さらに7月5日の東北楽天ゴールデンイーグルス戦では今季3号となるソロ本塁打を放ち、チームの勝利に貢献するなど、攻守両面で存在感を示している。



©GUNMA CRANE THUNDERS
細川一輝さんは、26・27シーズンも契約を更新。「昨シーズンの1回戦で敗退し、チームとして目指していた場所に届かなかった悔しい年となった。今シーズンは国内トップリーグのBプレミアの優勝を目指す。個人としては『3ポイント王』のタイトル獲得とプレーの幅をさらに広げ、チームの勝利に貢献したい」と意気込みを語り、さらなる飛躍を目指している。

群馬クレインサンダーズ
細川 一輝さん
細川一輝選手は、2020年に上武大学を卒業し、現在はBLEAGUE・群馬クレインサンダーズに所属するシューティングガードとして活躍している。正確な3ポイントシュートと献身的なディフェンスを武器に、25・26シーズンはリーグ戦全60試合に出場し、26・27シーズンも契約を更新。「昨シーズンの1回戦で敗退し、チームとして目指していた場所に届かなかった悔しい年となった。今シーズンは国内トップリーグのBプレミアの優勝を目指す。個人としては『3ポイント王』のタイトル獲得とプレーの幅をさらに広げ、チームの勝利に貢献したい」と意気込みを語り、さらなる飛躍を目指している。

忘れず、多くの方に愛される選手、攻守で活躍して一軍に定着できるように頑張ります。そして、チームとしての目標である『日本一』に貢献していきたいと思っています。上武大で培ったことを忘れずにプロの世界で戦っていきますので、引き続き応援をよろしく願います」と語った。

手。現在はプレーヤーとして第一線で活躍する一方、上武大学で開催されたバスケットボールクリニックに参加し、小・中学生ら50名に自身が得意とするシュートについて意識しているポイントや技術をつたえる等、競技の普及活動にも積極的に取り組む、バスケットボールを通じた地域貢献にも力を注いでいる。